

今を在る者が愛弟子冬木の芽

藤田湘子

この句が鷹誌に掲載されたのは、平成十五年一月号であつた。一月号は十二月末に届くから、湘子の発表十二句の中にこの句を見つけ、実に嬉しかったことを覚えてゐる。自分が師と尊敬する俳人から「今を在る者が愛弟子」と呼ばれるなら、こんな誇らしいことは他には無い。鷹同人であり良かった、と心底感謝した。

また、一月号の句帳の余白には、山廬門下の丸山哲郎氏の著書『飯田蛇笏秀句鑑賞』を紹介しつつ、「もはや昨今の俳壇に望むべくもないが、師を尊崇する弟子のあり方はかくあらねばならぬ、と教えられた。」と述べていた。

春を待つ冬木の芽から、さて今の私はどうだろう。

2002年（二〇〇二）第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩